上 - 第２部　心のしくみと働き　問題

＜１＞以下の文章について、空欄となっている（　　）内に適切な単語を入れてください。

（各２点　計 70 点）

1. 感覚で受け取った情報を統合し、物や場所の特性として具体的に知る過程を（①）と呼ぶ。
2. 心理学においてルビンの壺を用いて説明されるように、ヒトが注意を向けている領域は（②）と呼ばれ、注意が向けられていない領域は（③）と呼ばれる。このような注意の機能のことを（④）と呼ぶ。
3. いくつかの前提をもとに、論理的規則に従って結論を導き出すことを（⑤）、さまざまな経験や個別の事実から、一般的法則を導き出すことを（⑥）という。
4. 心理学における行動とは、そのときどきの（⑦）において示される、有機体の（⑧）や反応、あるいは（⑨）と定義されている。
5. レスポンデント条件付けでは、元々は何の意味も持たなかった（⑩）刺激が条件付けによって（⑪）刺激となる。そのためには（⑪）と無条件刺激が時間的に（⑫）している方が良い。
6. J.B.ワトソンの実験で、アルバート坊やが白ネズミだけでなく、他の白いものも怖がるようになったのは（⑬）が起こったからである。
7. レスポンデント条件付けは刺激＝刺激の間の学習であるが、オペラント条件付けでは（⑭）＝刺激の間の学習がなされている。
8. SST などの場面において、他者の行動をお手本にして学習することを（⑮）と言う。
9. いかなる能動的行動も（⑯）の回避に一切役立たないという経験を通して無力感が学習されることを学習性無力感と定義した人は（⑰）である。
10. 発達は量的かつ連続的に起こるのみでなく、一定の区分で質的に変化すると考えられている。区分による発達の変化を理解しやすくするために（⑱）という考え方がある。この区分による発達課題の理論の一つに（⑲）の漸進的発達図式がある。
11. 成人初期は職業上の経歴や活動経験、人生の役割など（⑳）の発達にとっても重要な時期となる。これに関し、職業生活と家庭生活の均衡を図るために（㉑）が重要であるといわれる。
12. R.S.ラザルスはストレスへの対処行動を（㉒）対処行動と（㉓）対処行動の 2 つに分類した。
13. 適度なストレスは個人の生活を活性化する。このような良性のストレスを（㉔）、逆に個人に脅威を及ぼすようなストレスを（㉕）と言う。
14. 認知療法においては、何らかの否定的な感情や感情的振る舞いが引き起こされる直前に、クライエントの内部で情報処理される言語やイメージを（㉖）と呼ぶ。
15. 代表的な知能検査であるウェクスラー法は改訂を重ねており、日本では現在、最新版として、成人用は（㉗）、児童用は（㉘）が使われている。
16. 「非指示的カウンセリング」「来談者中心療法」の基礎を作ったのは（㉙）である。
17. カウンセリング場面では、（㉚）を使ってクライエントが自由に話せるようにし、必要に応じて（㉛）や「閉じられた質問」を用いる。
18. 防衛機制の一つで、自分の本心と正反対なことを無意識に言うことを（㉜）と言う。
19. 集団に属する個人は、自分の（㉝）を（㉞）から肯定的に区別しがちである。
20. 集団で決定したことが、個人で決定するよりも極端な方向に偏る（㉟）はリスキーシフトとコーシャスシフトに分けられる。

＜２＞三隅二不二の「PM 理論」について簡潔にまとめた上で、集団の状況とリーダーシップの関連について記述して下さい。

（300 字以上 350 字以内　30 点）